

アナログ再構成後の展開(5)
—TANNOY Autograph MINI—

1. 始めに

前報(1)のアナログ再構成の経過を踏まえて TANNOY Autograph MINI により結果を検証します。

2. アナログシステム再構成後の試聴計画

アナログシステム再構成後の試聴は主として前報(1)で整理したように FAL C90EXW のシステムで行ってきましたが、システムを替えて実施します。

今回は、TANNOY Autograph MINI のシステムで行います。

横並びにシステムを替えて試聴を行う場合は、同一の音源を使用することが多いのですが、今回も、対象システムに最も適切に能力を発揮させたい音源を選択することとします。仮想アースへの接続は最適と思われる条件に設定します。

3. アナログシステム再構成後の試聴結果

今回選択した音源と再生システムは次のとおりです。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

以上、LINN LP-12 再生

LONDON 360R 56009

モーツアルト ディヴェルティメント 17 番

ウイリー・ボスコフスキー指揮ウイーンモーツアルト合奏団

PHILIPS PC157 1-2

バッハ チェロ組曲

モーリス・ジャンドロン

以上、ThorensTD124 再生

POLYDOR 28MX2007

Best 14

加藤登紀子

以上、Garad401 再生

S.Bach の Sonatas & Partitas の LINN LP-12 の再生では、TANNOY の最も得意とする弦の艶やかさがでており、ボウイングの様が鮮やかに表現されています。

選帝侯のソナタの LINN LP-12 の再生では、打鍵もしっかりしており、響きも躯体のサイズの割には豊かでスケール感もあります。

ディヴェルティメント 17 番の ThorensTD124 の再生では、テープ再生装置とカッティング装置を直に接続したダイレクトカッティングシステムらしい鮮度の良さと音場の広がり感が、サイズの割には出ていますが、コントラバス領域の明瞭度が欠けており、プーミーさが付きまとうのはやむを得ないところです。

チェロ組曲の ThorensTD124 の再生では、サイズの割には響きも豊かで朗々と鳴っており、胴鳴りのプーミーさの発現も踏みとどまっています。

加藤登紀子の Garad401 の再生では、自然で伸び伸びとした歌唱力が表現されています。

4. まとめ

LINN LP-12 、ThorensTD124、Garad401 各システムに対して実施してきた対策の効果が TANNOY Autograph MINI のシステムにおいて確認できました。

以上